

医療介護総合法案の影響 市は否定もできず

6月議会では、認知症や地域ケアシステムに関連する問題を取り上げた議員は川村議員も含めて5名。質問に立った議員の1/3です。今年度は介護保険の次期事業計画策定作業を行うこともあってか、いつになく質問テーマが重なりました。

議会最終日は傍聴席がほぼ満席。傍聴者の多くは、集团的自衛権の問題で市議会がどのような態度を示すか見に来られた方々で関心の強さがうかがえました。6月議会についてまとめました。

16日(月)には川村議員が医療介護総合法案の影響について質問。

介護保険の制度改正は国の資料が示されるのがいつも遅く、ハッキリしない答弁に終始してしまうのが常です。

軽度者外しの影響で、介護事業所の倒産・失業者数の増加、要支援の方の重度化、女性の(家族介護を理由とした)離職者増加などの影響が

出ることなどについて、市は否定できませんでした。

「軽度者が重度化しないように配慮してまいりたい」と答弁にもあるように、尾張旭市に努力を求めて行くとしても介護保険制度の問題は国政を変えなければ解決しません。

介護制度の改善を許さない、改善を求める世論を作ったゆかなければと思いません。

山下議員(維つ)から議員定数を19名に減らす議案が出され賛成6・反対12で否決されました。

尾張旭市議会の議員定数は条例上21名ですが、市長選に市議2名が立候補後、2名欠員の状態で市議会が運営されてきました。この間、議会運営に問題は無かったのだから定数を



19にしても良いだろう。というのが提案の中身です。

市議会では議員定数について「議会のあり方検討会」で議論を続け、意見はさまざま違っても定数21で次期市議選を行う意見が大勢でした。山下議員の提案は、この間の市議会の議論を覆そうというものです。

反対討論に立った川村議員は議員定数を変更するといくつもの検討すべき課題が発生する。ただ議員定数のみを一会派の提案で持ち込む方法は乱暴な印象がある。市議会はある方検討会で議論を重ね、

現状維持という意見が大勢であった。議員定数は落ち着いた話し合いが必要で、それがあり方検討会だったのではないか。そのような受け止めを提案者がされていけない様子で残念。などと討論しました。

定数減らして報酬・政活費の増額?

賛成討論に立った森議員は議員定数削減後、議員報酬増額の考えを示しました。

松本議員にも定数削減により議員報酬や政務活動費の増額を考えるなどの発言が見られます。

報酬については、市議会とは別組織の報酬審議会が議論される問題です。政務活動費が不足しているなら、理由を示して予算要求すれば良い話です。

落ち着いて議論をしなければ、おかしな事になりかねません。



議員定数削減案を否決

来春から
軽自動車税が値上げ

原付バイクや軽自動車の軽自動車税は市町村に納められる地方税です。市税条例改正で、来年4月からの軽自動車税が増税されました。

バイクは来年4月から、軽自動車は、来年4月以降の新規購入のものから増税されます。

川村議員は反対討論で、軽自動車税の引き上げは雇用や経済の面で困難を抱える地方や郊外の住民ほど負担増の影響が大きくなるもので、庶民に消費税増税に加えた二重の負担を押しつけるものと批判しました。